

薬連ハイライム

第2回全国会長・幹事長拡大会議 開催される！

令和3年8月23日（月）、AP日本橋において令和3年度第2回全国会長・幹事長拡大会議（ウェブ会議）が開催された。大原常任総務の司会で開会され、冒頭の挨拶では、山本会長より九州、中国はじめ台風あるいは水害で危害に合われた地域の方々にお見舞いの言葉が述べられた。また、コロナの感染拡大が止まらず緊急事態宣言、まん延防止等重点措置がとられている中で来年の参議院選挙まで1年を切っている。薬剤師職能を維持するためにも、二人体制を維持したいと強い決意を示された。

議事に入る前に新しく会長、幹事長になられた方の紹介があり、就任された方からご挨拶があった。

議事に入り、石井副会長から、会務、役員交代、若手フォーラムの開催状況等が報告された。

次に荻野副会長から、直近の政治課題（ロビー活動）として来年度（令和4年度）予算・税制改正要望等について、本年5月及び7月、8月における菅総理大臣ほか主要議員への訪問状況について報告がなされた。

更に岩本幹事長から、第49回衆議院議員選挙都道府県連盟推薦候補者について資料に基づいて報告がなされた。

協議に入る前に、神谷副会長から、全国支部訪問活動の状況を振り返りながら、改めて力強い決意のほどを全国の会長・幹事長に向けて表明した。

続いて、神谷まさゆき中央後援会活動に関する報告と協議に入り、組織体制、後援会全体スケジュール、支部訪問等について担当役員より説明があり、大澤副会長からは紹介者・支援者名簿の収集状況について都道府県別名簿達成率を中心に説明された。続いて、全ての都道府県から名簿の収集状況と今後の予定について報告された。また、担当役員より、広報活動、支援団体の状況等について報告された。

次に、次期参議院議員通常選挙対策について執行部より、自由民主党第26回参議院議員通常選挙候補者として神谷副会長が公認されたこと、選挙対策本部における担当業務案、政党ポスター制作について報告がなされ、質疑応答の後、荻野副会長の閉会の挨拶で本会議は終了となった。

もとゆき便り

令和4年度予算概算要求

情報監視審査会会長
参議院議員・薬剤師
藤井 基之



令和4年度予算概算要求は、8月末に各省庁から財務省に出されました。一般会計の要求総額は111兆円を超え、4年連続で過去最大を更新しました。

厚生労働省の一般会計要求総額は、前年度の当初予算に比べて8,070億円増の33兆9,450億円、このうち医療・介護等の社会保障費は、6,738億円増の31兆7,791億円となっています。この他、新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえた、保健・医療等の提供体制確保やワクチン・治療薬の研究開発促進等の事業費が、所要額を示さない事項要求となっています。

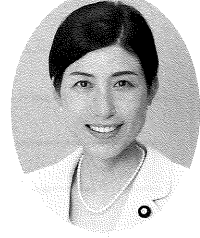
薬剤師・薬局の関連では、電子処方箋の安全かつ正確な運用に向けた環境整備を行うとともにモデル事業を実施する費用として9億6千万円、電子版お薬手帳の効果的な活用方法を検討する費用として4千万円、がん患者や小児・妊産婦等の専門性の高い薬学的管理・指導をするための研修等、薬剤師の更なる資質向上を図るための費用として6千万円を何れも新規に要求しています。

来年の診療報酬・薬価改定への対応については、年末までの予算編成過程で検討することとされています。菅総理が退任し新しい体制のもとで予算案の策定が行われることとなりますが、医療提供体制の状況を踏まえた公正な判断がなされるよう、求めています。

オレンジ日記

自宅療養を経験して

自民党厚生労働部会副会長
参議院議員・薬剤師
本田 顕子



私は今回検査陽性となり、8月10日、保健所からの電話で自宅療養を伝えられました。「自宅療養」とは、新型コロナウイルスを人にうつすことを極力抑えるための隔離、社会との遮断、そしてコロナ感染症という病気を治すための治療と養生の期間であると私は理解しました。ワクチン接種の効果もあり、私の場合は熱が出るなどなかったため、オンライン診療等の必要はありませんでした。無症状といっても、多少の身体の変化はありました。起きる時に体が鉛のように重く感じるのです。以前検査陽性となられた経験がある、とかしきなおみ先生は「起き上がるときに引力を初めて感じた」とおっしゃいました。私はその言葉が本当にぴったりだと思いました。

こうした身体の変化を感じながらも治療という実感がなく不安に過ごされている自宅療養者が多くいらっしゃると思います。そして、その方々の不安な思いが不満につながっていくことを私たち国会議員も重く受けとめなければならないと思いました。

8月31日の自民党新型コロナウイルス本部の緊急提言では、医療機関と薬局等の連携のもとで自宅療養者にも医薬品を円滑に投与できるよう早急に指針を示すべきと記載されています。

コロナ感染症の治療の道筋に貢献できるよう、先輩方に学び頑張っています。